

紙芝居で開拓の悲話を伝えよう

三毛別開拓事件



郷土史研究会は、六月の総会で、事業の一環として、開拓事件を紙芝居で後世に残すことに決定。

本町の三毛別六線沢で、大正四年に発生した獣害史上最大といわれる「三毛別開拓事件」は、郷土芸能「くま獅子舞」や川説、映画、ラジオなどドラマ化され、先人の開拓の苦勞や偉業を後世に伝えるべく活動を行ってきた。



また、その事件の概要を次代を担う子どもたちの目線にあわせた内容の紙芝居を公民館の協力を得て、吉前町くま獅子保存会と共同製作し、本町の開拓の悲話を伝えようというものである。

なお八月二十八日、編集委員が留萌合同庁舎で作製講習会を受講しました。編集委員会のメンバーは次のとおりです。

- ◎郷土史研究会
野澤哲美(代表) 斉数範章
- ◎くま獅子保存会
松岡満雄(事務局) 天谷正雄 伊藤通康
- ◎公民館
佐藤隆裕(主事) 安藤麻里(図書司)

三毛別開拓事件の概要

町民の皆さんには、今一度、三毛別開拓事件の概要を次のとおり記録しますのをご目を通してください。

◎年月日：大正四年(1915)12月9日

◎場所：北海道天塩国吉前郡吉前村大字万倉村三毛別御料農地六号新区画開拓部落六線沢

◎背景：明治43年(1910)頃より大樺鬼鹿村より転入してきた15戸、この年は平年作、秋のうち十分の餌が取れず冬ごもり、機を逃した穴持たずと威張れる金毛混じりの黒褐色の雄、身の丈2.7m、体重340kg、7〜8歳、天塩でも人を襲い、三毛別でも何度かトウモロコシなどを食い荒らしている。

◎経過

◎12月9日 太田家
太田三郎、内縁の妻阿部マユ、預り子蓮見幹雄、寄宿人長松要吉(通称オド)朝から三郎は部落の水橋架け出合い作業に出かけ、オドは裏山の作業

幹雄は一撃で倒された模様(死者二人目)マユは薪を掴んで立ち向った様子だが倒され、熊は遺体をくわえて山林に連れ去る(死者二人目)12時頃オドが家に戻り、幹雄の遺体発見

◎12月10日
朝5時、斉藤石五郎吉前村役場に事件を知らせるため出発、9時頃マユの遺体捜索、30人ほど、熊が飛び出してきて逃げ去る。再び捜索、午後3時過ぎ、マユの遺体発見

◎12月11日 遺体を囲にして熊の現れるのを待つが失敗

◎12月12日 午後8時頃、三度目に太田家を襲う

◎12月13日 午後5時頃、8時頃、近隣の家や鶏、食料を奪う

◎12月14日 午前10時、討伐隊の山本兵吉ついに仕留める。

10時30分頃、突如大暴風雪発生、風速40m、暴風

◎12月9日 太田家
朝から三郎は部落の水橋架け出合い作業に出かけ、オドは裏山の作業

10時〜11時頃、熊が太田家を襲う

資料館裏の、古代の里に「三毛」を捨てる人が多く、高齢者事業団の協力を得た

子どもたちの木登りが多く危険と樹木を痛める



郷土資料館

10月26日現在の入館者は2694人

一番遠い所から来た人はアメリカから

回数が多い人は3回、次回は家族や会社の人までここに来ること

感心した人「熊嵐の本を買って勉強して来た人」

人館者からの声

①無傷の土器に感心

②展示方法がよく、ところも見やすい

③熊嵐のビデオテープがほしい

④受付場所が見つけづらい

⑤その他、国道の街灯は何を表現しているのかと聞かれた

特別展北の野鳥たちには児童生徒が多く入館し好評でした



知ってほしい話

開基百年記念事業

吉前町開基百年(明治十三年、昭和五十五年)の記念事業が盛大に行われましたが、その当時を振り返り、昭和五十五年九月末の人口は六五八五人、平成十八年九月末は四〇三〇人

主な行事は、市中大ホール、千人踊り、町内子ども会議、都はるみショー、大阪くれば吉前から始まる、役場庁舎着工、ばんば大会、花火大会、各種講演会、スノー大会、熊嵐のテレビ化、幻の巨熊、北海太郎、射止める、町民憲章制定、町木、町花の指定、長島町と友好町の締結など